

## ご支援の流れ

### 会費・寄付金

個人・企業・団体からの会員費と寄付金

### チャリティ・イベント

チャリティ・オークション実行委員会、京都チャリティ・ファンラン実行委員会など賛同団体によるイベントからの収益

### 助成金

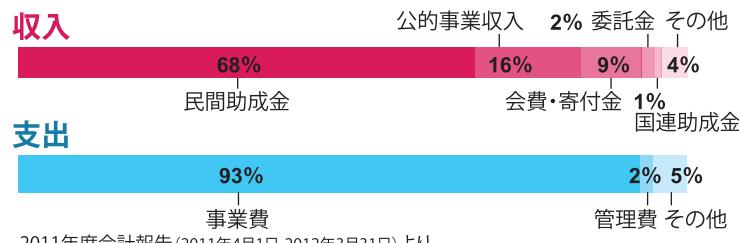
政府系機関・国連機関・財団・企業からの助成金や委託金



## 国内外の緊急支援・途上国の人々の自立のために



住血吸虫症の治療薬を配布し、感染率の低下を実現(マラウイ)



## 未来をつくる支援



安全な水が飲めるよう導入された水路と子どもたち(マラウイ)

NICCOは、世界にある様々な問題を解決するために、現地の人々と共に考えプロジェクトを進めています。

原因が複雑に絡み合う途上国の貧困問題の解決のためには、モノを与えるだけの支援では人々の生活を変えることも、彼らの未来を変えることも、困難なのが現実です。

そのためNICCOは、人々の必要とする支援を重層的に組み合わせて、総合的な村落開発を行い、最後は必ず収入の創出に結びつけることで、人々の自立を支援しています。

NICCOはいつも人々と共に、今と未来をつくっていきます。



## さまざまなご支援方法

### 郵便振替によるご寄付

海外プロジェクトへのご寄付

口座番号: 01070-5-60791

口座名 : 公益社団法人 日本国際民間協力会

※払込取扱票の備考欄に「免」とご記入いただくと、手数料が無料になります。また支援国や事業を指定される場合は、備考欄にご記入ください。

東日本大震災支援へのご寄付

口座番号: 00910-1-209187

口座名 : 公益社団法人 日本国際民間協力会

※手数料はご負担いただきますようお願いいたします。

### NICCO会員制度

正会員 : 個人1口2万円以上 法人1口10万円以上(年額)

賛助会員: 個人1口2千円以上 法人1口2万円以上(年額)

### 毎月サポーター

サポートしたいプロジェクトをご指定いただき、月々2千円以上からご支援いただく、自動振替/クレジットカードによる継続的なご寄付です。

それぞれの**ご支援の特典やご報告方法**など、詳しくは

<http://www.kyoto-nicco.org>をご覧ください。

### こんな参加方法も...

#### インターとして活動する

広報・イベント担当、琵琶湖モデルファーム担当、海外事業担当(半年間の国内事業研修後)などのインターンを年に2回募集しています。

#### NICCOの最新の情報を知る

Twitter(@KyotoNicco)、メルマガ、Webサイト、YouTube動画、Facebook、ブログで、活動報告やイベントのお知らせを更新しています。

#### 公益社団法人 日本国際民間協力会 (NICCO)

京都本部: 〒604-8217 京都市中京区六角通新町西入西六角町101番地  
TEL: 075-241-0681 FAX: 075-241-0682

東京事務所: 〒102-0074 東京都千代田区九段南4-7-19  
ツボヤビル4F 2号室  
TEL: 03-3221-5721 FAX: 03-5213-4875

E-mail: [info@kyoto-nicco.org](mailto:info@kyoto-nicco.org) Web: <http://www.kyoto-nicco.org>

2012年10月発行



**nicco**  
公益社団法人 日本国際民間協力会

アラビア語圏での略称 **niccod**

**Nippon International Cooperation  
for Community Development**

内閣府認定公益社団法人  
特定公益増進法人(寄付金・遺産控除)  
国連経済社会理事会特別協議資格団体

## NICCOの歩み

日本のNGOの草創期にあたる1979年(昭和54年)12月の設立以来、京都に本部を置きアジア、中東、アフリカ等の各地で、緊急災害支援、環境保全型農業に基づく農村開発、職業訓練などを中心に、途上国の人々の自立支援を行っています。日本国内では、東日本大震災被災者支援をはじめ、生物多様性を重視した冬季湛水田や有機農業、そして若者の人材育成に力を注いでいます。

## NICCOの目指すもの(Vision)

人々が貧困と紛争から解放され、地球環境との調和の中で、自己の可能性を十分に実現できる、心と地域の平和の構築。



## NICCOのPolicy

徹底した人道主義に基づき、特定の人種、宗教、政治思想に偏ることのない活動

## NICCOが遂行すべき任務(Mission)

### 緊急災害支援

国内外で、自然災害や紛争により生命の危機にさらされている人々を救援するため、一刻も早く現場に向かい緊急支援活動を開始し、早期の自立した復興も見据えた支援活動を展開します。

### 環境保全に配慮した自立支援

環境への配慮・持続可能な発展を常に念頭に置きながら、貧困や災害により困難な生活状況にある人々の収入向上を支援し、経済的・精神的な自立を達成することで、『貧困の連鎖』を断ち切るお手伝いをします。

### 人材育成

NICCOは途上国で事業を実施する際、NICCOの支援が終わった後も住民が自助努力によって事業を継続・発展させていくよう、現地の担い手づくりに力を注いでいます。また日本国内でも、国際社会でリーダーシップを取れる人材の育成を行っています。



宮城県名取市での子どものための心理社会的ケア"スカイルーム"



栄養改善・収入創出につながる有用樹モリンガと村人(マラウイ)



PCや英語のスキルを身に着けて、就職を目指すヨルダンの青少年達

### マラウイ

2007年から“飢餓の起きない村づくり”として、食料の自給自足のための農業技術移転、有用樹植林による収入創出、エコサントトイレ導入による農産物の増産と衛生改善、蚊帳配布によるマラリア対策、住血吸虫、HIVなどの感染症対策を組み合わせた包括的な支援を実施。



エコサントトイレ(マラウイ)

### パレスチナ

小規模オリーブ農家に、オリーブの品質向上のための技術移転、製品販売のためのマーケティング支援を行い、貧困農家の生活向上と地域の環境保全を推進。ヨルダンの有機オリーブ農家、イスラエルのNGOや専門家、日本の専門家とのオリーブオイル生産と害虫対策のためのネットワーク構築を支援し、平和を推進。

### ヨルダン

貧困地区に住むヨルダン人青少年のために職業訓練センターを運営。仕事を得て自立するために、英語・IT・機械修理などの職業訓練や、就職支援、社会でのストレス対処法を学ぶストレスマネージメント、リーダー育成のプログラムを提供し、貧困削減と地域安定化のモデルを構築。また、シリアからの難民に対する支援も実施。

### イラン・アフガニスタン

アフガニスタン国内にて、低い就学率・識字率を向上させるため、小学校建設や学習環境の整備を支援。また、女性を対象にした識字教室も運営し、女性と家庭内の子どもの識字能力を向上させることで、地域の教育システムを改善。イランでは、アフガン難民のためのITと就職活動の訓練及び実務研修を行なう帰還・就職支援センターを運営。



アフガニスタン国内にて建設された小学校

### パキスタン

高濃度のヒ素に汚染された井戸水による健康被害を予防するため、日本人専門家を派遣して浄水施設の設置や住民主体の施設維持を支援。施設維持を可能とする持続可能な収入向上のため、農業専門家によるワークショップを通して、高収益が望める作物の栽培知識や技術を伝える農業支援を実施。



ごまの栽培によって生計向上を実現(パキスタン)

### 日本

東日本大震災被災者支援として、心のケア、子どもの夢応援団プロジェクト、農業復興支援、新しい東北の名産品開発による経済復興支援、ボランティア派遣などを実施。滋賀県竜王町での“ふゆみずたんぽ”や自然観察会などのイベントを通じた、有機農法の実践と生物多様性保全。京都本部でのインターンシップ(国内外における実務研修)を通じた、国際社会で活躍・貢献できる人材の育成。



ふゆみずたんぼ(不耕起・冬季湛水田)で田植えをするボランティア(日本)

## 緊急災害支援の成果

東日本大震災では、被災者の生活環境から心のケアまでの包括的なサポートとして、物理的な支援だけでなく、ニーズに即した複数の取り組みを通じて、人々の新たな絆作り、そしてコミュニティ全体の心理社会的な安定、経済復興までを支援します。安全・生活・健康など生活の基礎的な部分の再建として、のべ750名以上の学生ボランティアを派遣しながらのがれき撤去・家屋・農地の清掃(のべ122カ所)、pest control(のべ1,834名の防疫専門家による害虫の発生監視と駆除作業)などを行いました。心のケアでは、心理内科医の監修のもと、子どもをPTSDから守るために、また、仮設住居でも孤立化・孤独死の予防のために心理社会的ケアやコミュニティ支援を行っています。(のべ4377人が参加)(2012年3月現在)

## 環境保全に配慮した自立支援の成果

マラウイでは、尿と大便を分離し、衛生的に肥料にすることができるエコサントトイレを約700基建設しました。建設資金を出す意欲のある村人を募り、足りない額をNICCOが負担し建設技術を教えながら建設しています。建設するだけでなく、村人の中からトイレを管理する管理委員会を募り、使用者の間で使用状況を確認したこと、なんと90%以上のトイレが正しく使われています。さらにエコサントトイレによって衛生状況が改善され、事業地であるムワザマ地区全体のコレラの発生数は2008年から0件に抑えられています。また、エコサントトイレの肥料を使った土地では、無施肥の土地よりも約2.6倍の収穫を得ることができました。(2008年～2011年事業成果より)

## 人材育成の成果

イランでは、2009年7月から2012年9月までに約2400名のアフガン難民が、アフガニスタンへの帰還や就業に関するセミナー、技術訓練コース、相談サービス等、就職と帰還支援のプログラムに参加しました。多くの若者がまだ見ぬ祖国アフガニスタンへの帰還の意識を強める中、祖国の情勢が安定しないにも関わらず51名の卒業生がアフガニスタンへの帰還を果たしました。帰還した卒業生は政府機関や国連機関、国際NGOなどの仕事に就き、祖国アフガニスタンを牽引する人材のモデルとなって活躍しています。(2009年～2012年事業成果より)